

2020年8月25日

～第67回 静岡県版 景気ウォッチャー調査(2020年7月)～

## 最悪期は脱したが第二波の懸念から悪化判断が継続

静岡経済研究所(理事長 一杉逸朗)では、7月下旬に実施した「景気ウォッチャー調査」の結果をとりまとめましたので、ご案内します。

### 現状判断(概要)

- 過去最低水準は脱したが、7月中旬以降の新型コロナウイルスの感染拡大により再び状況は深刻化し、全分野で悪化判断が続いた。
- 県内景気の「現状判断指数(方向性)」は37.1と、過去最低だった前回4月調査(6.0)から+31.1ポイントと大幅に改善したものの、景気の“横ばい”を示す指数「50」を9期連続で下回った。

### 先行き判断(概要)

- 新型コロナウイルス感染症の長期化への懸念が拡がり、悪化判断が続く見通し。
- 2～3カ月先の景況感を示す「先行き判断指数(方向性)」は30.1と、前回調査(19.3)から+10.8ポイント上昇したが、6期連続で「50」を下回った。

※本件のお問い合わせ先 担当(中澤 郁弥)

## 最悪期からは改善したが、先行き懸念で悪化続く

2020年7月調査の現状判断指数は37.1と、過去最低だった前回4月調査(6.0)から+31.1ポイントと大幅に改善したものの、景気の“横ばい”を示す指数「50」を9期連続で下回った(図表1、2)。また、2～3カ月先の景況感を示す先行き判断指数は30.1と、前回調査(19.3)から+10.8ポイント上昇したが、6期連続で「50」を下回った(図表1、4)。

現状判断については、家計消費関連において、飲食、サービス関連を中心に客足の回復がみられたが、7月中旬以降、新型コロナウイルスの感染拡大により再び状況は深刻化し、景況感は引き続き悪化判断となった。事業所向けビジネス関連と雇用関連については、家計消費関連ほどの改善はみられず、営業活動の制限や景気への先行き不透明感から受注量や求人数が減少し、依然として悪化判断が続いた。

先行きについては、家計消費関連では、新型コロナウイルスの感染拡大を懸念する見方が強く、悪化判断が続く。特に住宅関連は、前回より景況感が唯一悪化した。事業所向けビジネス関連では、最悪期は脱したが第2波の懸念などから悪化判断が継続し、雇用関連においても、求人数の回復に時間を要するとみており、引き続き悪化判断となった。

### < 調査結果の要旨 >

( D. I. は次頁「調査の要領」参照 )

**現状判断 (D. I. =37.1)** 過去最低水準は脱したが、全分野で悪化判断が続く

- ・家計消費関連 (D. I. =41.2) 自粛時期と比べれば客足戻るが、平年の水準には至らず
- ・事業所向けビジネス関連 (D. I. =26.3) 営業活動の制約から受注量が伸びず
- ・雇用関連 (D. I. =30.0) 先行き不透明感から、求人数が前年水準まで回復せず

#### <現状判断の理由>

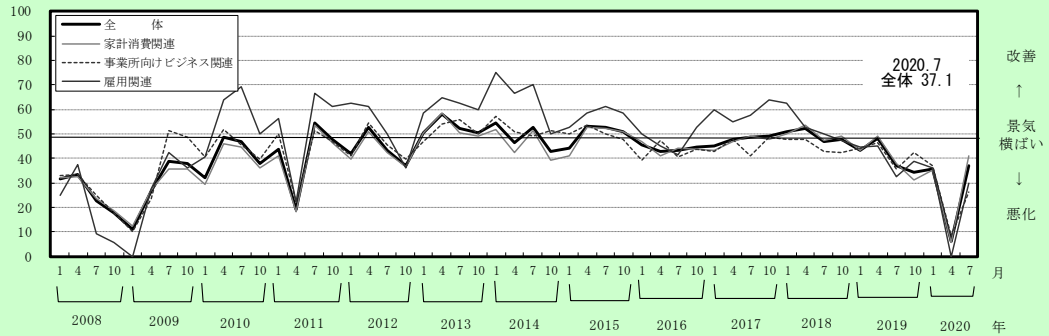
- ・家計消費関連 … 「来客数」の減少や「お客様の様子」から、悪化判断
- ・事業所向けビジネス関連 … 「受注量や販売量」の減少から、悪化判断
- ・雇用関連 … 求人を探えるなど「求人の動き」から、悪化判断

**先行き判断 (D. I. =30.1)** 感染症長期化への懸念拡がり、回復見通せず

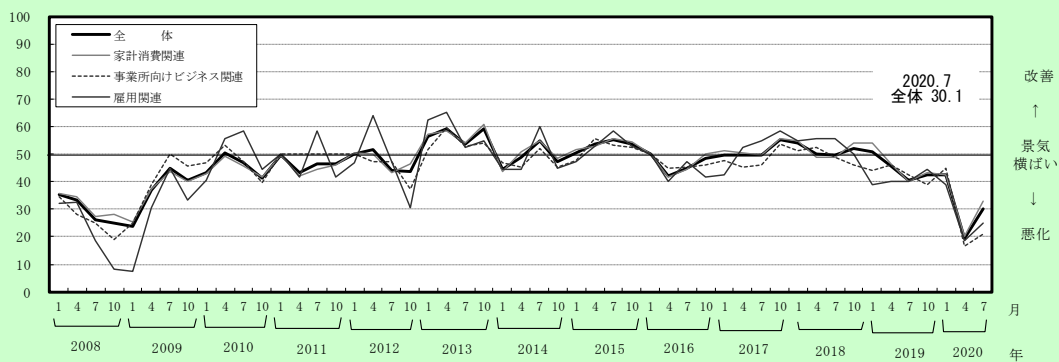
- ・家計消費関連 (D. I. =33.1) 感染拡大への不安色濃く、住宅関連では見通し後退
- ・事業所向けビジネス関連 (D. I. =20.8) 第2波への懸念から、回復の見通し立たず
- ・雇用関連 (D. I. =25.0) 求人数の回復には時間を要するとの声が多数

図表1 現状判断指数（D. I.）と先行き判断指数（D. I.）の推移

現状判断指数の推移



先行き判断指数の推移



【D. I. は50が「景気横ばい」、上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示す】

### 調査の要領

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的にしている。
- (2) 調査対象・方法：経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者にアンケート調査
  - ・家計消費関連 (n=71)
    - (内訳) 小売関連 (n=30) …… 百貨店、スーパー、乗用車販売など
    - 飲食関連 (n=8) …… 飲食店、外食チェーンなど
    - サービス関連 (n=23) …… 観光ホテル、旅行代理店など
    - 住宅関連 (n=10) …… 不動産販売、住宅販売など
  - ・事業向けビジネス関連 (n=20) …… 印刷、広告代理店、運輸など
  - ・雇用関連 (n=10) …… 人材派遣、職業紹介など
- (3) 調査事項：現在の景気の水準について/景気の現状に対する判断（3カ月前との比較）/その判断理由と追加説明および具体的状況の説明など（自由回答）/景気の先行きに対する判断（2～3カ月前の予想）
- (4) 調査時点：2020年7月下旬
- (5) 回答状況：調査対象105名のうち、有効回答を寄せていただいた方は101名で、有効回答率は96.2%である。

\* 景気判断指数とは、景気の状態や先行きに対する判断を点数化（下表）し、それらに各判断の構成比（%）を乗じて指数（D. I.）化したものである。これにより、判断指数（方向性）においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。

評価	現状判断	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
	先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

## 現状判断 過去最低水準は脱したが、全分野で悪化判断が続く

### 家計消費関連 (D. I. =41.2) 自粛時期と比べれば客足戻るが、平年の水準には至らず

家計消費関連の現状判断指数は41.2と、過去最低だった前回から+35.3ポイントと大幅に改善したが、横ばいを示す「50」を9期連続して下回り、依然として悪化判断が続く。内訳をみると、小売関連(44.2)では、「給付金もあり、自転車等の購入は大きく伸長」(自転車販売)や、「来店客は少ないものの、単価及び購入確率は上がっている。10万円の給付が引き金になっているのかもしれない」(宝飾品販売)など、特別定額給付金の恩恵を受けた一部の店舗から「やや良くなっている」との回答もあった。しかし、「自粛が緩和されたものの、客数の伸びがみられない」(文房具販売)など、新型コロナウイルスの影響は拭い難い。飲食関連(37.5)とサービス関連(38.0)は、「4月と比べて多少良くなって来ているが、昨年度に比べると新型コロナウイルスの影響でかなり悪い」(外食チェーン)など、改善傾向にあるものの、前年比では依然として厳しい。住宅関連(42.5)では、「ローコスト住宅へ購入変更する動きが目立つ」(住宅・マンション販売)など、住宅取得価格を抑える動きや、購入自体の延期を検討している様子がみられる。

### 事業所向けビジネス関連 (D. I. =26.3) 営業活動の制約から受注量が伸びず

事業所向けビジネス関連は26.3と、前回から+18.0ポイント上昇したが、横ばいを示す「50」を20期連続して下回った。「営業活動も制限され、新規受注作りが難しい」(印刷)や、「テレワークにより、受注先との対面営業が出来ない」(ソフト開発)など、営業活動の制約などにより、受注量が減少して悪化判断が続いている。

### 雇用関連 (D. I. =30.0) 先行き不透明感から、求人数が前年水準まで回復せず

雇用関連は30.0と、前回から+30.0ポイント上昇したが、8期連続の悪化判断となった。「受注減、先行き不透明のため求人は減少」(職業紹介)、「2021年卒採用の計画も見通しが立たない企業が多い」(人材派遣)など、新型コロナウイルスによる先行き不透明感から、求人数は前年水準までの回復に至らず悪化判断が続く。

図表2 現状判断指数D. I. の推移

分野	2018年		2019年				2020年		2020.7月	
	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	今回	前回比
全体	47.3	47.8	43.5	48.0	36.9	34.2	35.5	6.0	37.1	+31.1
家計消費関連	48.3	49.3	43.2	49.0	37.8	31.3	34.9	5.9	41.2	+35.3
小売関連	46.0	48.3	40.8	44.0	37.1	26.8	33.0	9.4	44.2	+34.8
飲食関連	53.1	46.9	41.7	46.9	36.1	30.6	30.6	0.0	37.5	+37.5
サービス関連	46.9	47.1	44.0	55.0	39.0	35.0	38.5	0.0	38.0	+38.0
住宅関連	55.0	60.0	50.0	50.0	38.9	35.0	35.0	15.0	42.5	+27.5
事業所向けビジネス関連	42.9	42.5	44.0	46.3	35.7	42.5	37.5	8.3	26.3	+18.0
雇用関連	50.0	47.5	44.4	45.0	32.5	38.9	36.1	0.0	30.0	+30.0

## <現状判断の理由>

### 家計消費関連・・・「来客数」の減少や「お客様の様子」から、悪化判断

家計消費関連は、“(やや)悪くなっている”の判断理由として、「来客数の動き」を挙げる声をもっとも多く、「一品単価、客単価は上がるが、肝心な客数が前年を割る傾向」(スーパー)、「まったく動かず、特にシニア層は慎重な動き」(観光ホテル)などの指摘があった。また、住宅関連を中心に、「住宅を検討していたお客様がコロナによる先行き不透明感で契約を延期する傾向がみられる」(住宅・マンション販売)など、「お客様の様子」を挙げる意見も聞かれた。

### 事業所向けビジネス関連・・・「受注量や販売量」の減少から、悪化判断

事業所向けビジネス関連では、“(やや)悪くなっている”の判断理由として、「受託ソフト開発は受注生産であるが、下期分(10月～3月)の受注状況、商談件数が減少している」(ソフト開発)など「受注量や販売量の動き」を挙げる声が多いほか、「取引先の会社で仕事が減って従業員を休業させている会社が多い」(社労士事務所)といった「取引先の様子」を挙げる声もあった。

### 雇用関連・・・求人を控えるなど「求人の動き」から、悪化判断

雇用関連では、“(やや)悪くなっている”の判断理由として、「求人の動き」を挙げる声が多い。「ほぼすべての業種で中途採用が抑制されている」(求人情報誌)や「休業企業もまだあり、求人減少」(人材派遣)など、企業が求人を控える状況がみられた。

図表3 景気の現状判断理由

#### <家計消費関連 (n=66) >

景気の判断理由	来客数の動き	販売量の動き	客単価の動き	お客様の様子	競争相手の様子	左記以外
(やや)良くなっている (n=21)	10	7	1	3	0	0
変わらない (n=17)	8	6	2	0	0	1
(やや)悪くなっている (n=28)	11	5	2	8	0	2

#### <事業所向けビジネス関連 (n=18) >

景気の判断理由	受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き	取引先の様子	競争相手の様子	左記以外
(やや)良くなっている (n=2)	1	0	1	0	0
変わらない (n=6)	4	1	1	0	0
(やや)悪くなっている (n=10)	7	0	3	0	0

#### <雇用関連 (n=10) >

景気の判断理由	求人の動き	求職者の動き	就職者の動き	窓口の繁忙度合い	他の人材関連会社等の様子	左記以外
(やや)良くなっている (n=1)	1	0	0	0	0	0
変わらない (n=3)	2	1	0	0	0	0
(やや)悪くなっている (n=6)	5	0	1	0	0	0

※nは、回答先数

※判断理由の無回答・複数回答先を除く

## 先行き判断 感染症長期化への懸念拡がり、回復見通せず

### 家計消費関連 (D. I. =33.1) 感染拡大への不安色濃く、住宅関連では見通し後退

家計消費関連の先行き判断は33.1と、前回調査 (20.1) から+13.0ポイント上昇したが、横ばいを示す「50」を6期連続で下回り、力強さは感じられない。内訳をみると、小売関連 (35.0) では、「コロナの警戒感と今後の動向から目が離せない」(文房具販売) など、感染拡大への不安が色濃い。飲食関連 (31.3) では、「自粛ムードの再来で人の動きが止まる可能性と、消費マインドの低下で売上げ回復は先となる」(外食チェーン) など先行きを不安視している。サービス関連 (34.8) では、「Go To トラベルキャンペーンでの効果を期待しているが、浜松市内でのクラスター発生によりキャンセルも多く、今後の伸びが止まってしまう傾向となっている」(観光ホテル) など、Go To キャンペーンへの期待とともに、感染拡大による集客効果の消失を心配する声も挙がった。住宅関連 (25.0) は、「最近の第2波ともいえる新型コロナの拡がり、消費行動に影響を与えると思われる」(住宅・マンション販売) など、感染症長期化への不安から、前回 (37.5) より△12.5ポイント低下した。

### 事業所向けビジネス関連 (D. I. =20.8) 第2波への懸念から、回復の見通し立たず

事業所向けビジネス関連は20.8と、前回調査 (16.7) から+4.1ポイント上昇したが、引き続き悪化判断となった。「資金繰りに不安がある会社は減ってきており、休業・操業停止なども回復してきている」(税理士事務所) など、最悪の状況からは脱しつつあるものの、「第2波の到来で再び規制が行われると思っている」(給食) など、第2波を懸念する声が多く挙がった。

### 雇用関連 (D. I. =25.0) 求人数の回復には時間を要するとの声が多数

雇用関連は25.0と、前回調査 (18.8) から+6.2ポイント上昇したものの、横ばいを示す「50」を7期連続で下回った。「感染者の増加に伴い、求人の提出が再び減少する可能性が高い」(職業紹介)、「第2波の状況によるが、求人回復に時間がかかる見込み」(人材派遣) など、求人数の回復に時間を要し、厳しい状況が続くとみられる。

図表4 先行き判断指数D. I. の推移

分野	調査時期		2018年		2019年				2020年		2020.7月	
	7月	10月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	今回	前回比
全体	49.0	52.2	50.7	45.8	40.6	42.6	42.2	19.3	30.1	+10.8		
家計消費関連	48.3	54.2	54.1	46.5	40.1	43.4	42.1	20.1	33.1	+13.0		
小売関連	43.5	50.9	50.0	46.6	41.1	40.2	44.6	15.6	35.0	+19.4		
飲食関連	50.0	53.1	58.3	46.9	44.4	44.4	36.1	17.9	31.3	+13.4		
サービス関連	50.0	55.2	55.0	45.0	40.0	47.0	40.4	19.4	34.8	+15.4		
住宅関連	57.5	62.5	60.0	50.0	33.3	42.5	45.0	37.5	25.0	△ 12.5		
事業所向けビジネス関連	48.8	46.3	44.0	46.3	42.5	38.8	43.8	16.7	20.8	+4.1		
雇用関連	55.6	50.0	38.9	40.0	40.0	44.4	38.9	18.8	25.0	+6.2		

## 総括 感染再拡大で不透明感強まる中、事業支援策の一層の拡充を

今回の景気判断を総括すると、まず現状判断指数は37.1と、前回調査6.0から+31.1ポイントと大幅な改善で過去最低水準は脱したものの、景気の横ばいを示す指数「50」を下回り、全分野で悪化判断が続いた。「家計消費関連」では、休業要請や外出自粛が解除されたことで客足が戻りつつあるが、新型コロナウイルスの収束の見通しが立たず悪化判断となった。「事業所向けビジネス関連」では、営業活動の制約から受注量が減少し、「雇用関連」では、先行き不透明感から求人数は回復していないとの指摘が多く挙げられた。

先行き判断指数は30.1と、前回調査（19.3）から+10.8ポイント上昇したが、依然として悪化判断が続く。「家計消費関連」では、新型コロナウイルスへの警戒感や感染拡大の長期化への不安から、悪化の見通しとなった。「事業所向けビジネス関連」では、資金繰り不安は後退したものの、第2波への懸念から回復の見通しが立たず、「雇用関連」も、新型コロナウイルスの影響が続いて、求人数の回復には時間を要するとの見方が多い。

以上、静岡県内のウォッチャーによる景気判断は、新型コロナウイルスの感染拡大や営業活動の制限、先行きの不透明感などを背景に依然として厳しさが続く。今後については、新型コロナウイルスの影響は長期化が避けられないとみており、感染拡大防止と地域産業の存続を両立させるためにも、事業継続をサポートする雇用調整助成金、家賃支援給付金など、政府による各種支援策をより一層拡充させる必要がある。

（中澤 郁弥）

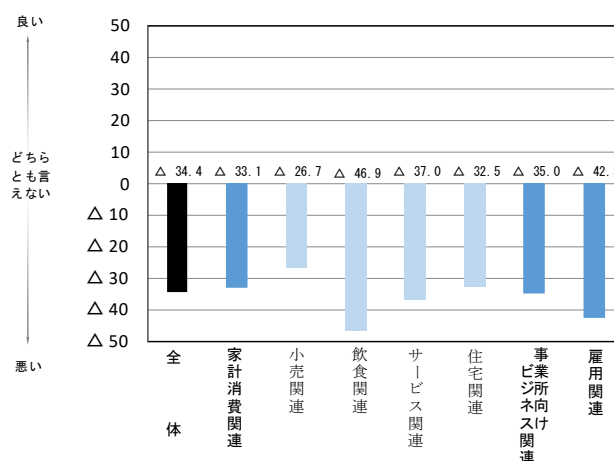
### <参考>

#### 現時点の景気は、すべての分野で “悪い” 判断

現時点での景気が“良いか悪い”を聞いた「水準判断」は△34.4と、前回調査（△43.3）は上回ったものの、基準値「0」を大きく下回った（図表5）。

家計消費関連は△33.1で、とりわけ、営業時間や座席数で制約を受けている飲食関連（△46.9）で、“悪い”との判断が目立つ。事業所向けビジネス関連も△35.0、雇用関連も△42.5と、すべての分野で“悪い”との判断となった。

図表5 現時点での「水準判断」



※ 現在の景気に対する判断を点数化して各判断の構成比を乗じた上で、「どちらとも言えない」をゼロとして数値化したもので最大値は+50、最小値は△50。プラスであれば景気が「良い」、マイナスであれば景気が「悪い」ことを示す。